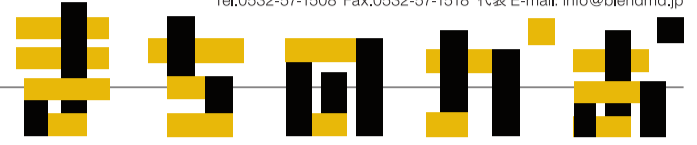


第91回 まちのかお

特定非営利活動法人 ゆずりは学園 学園長
杓名 和子さん

発行：株式会社ブレンド・マーケティングデザイン
住所：〒440-0897 愛知県豊橋市松葉町2丁目74 中目ビル202
Tel.0532-57-1508 Fax.0532-57-1518 代表 E-mail: info@blendmd.jp



<http://www.chigiri-paper.jp>

仲間づくりと、もうひとつの家族。 子供達が社会へのドアを自ら開ける日を目指して。

多くの子供にとって学校は、勉強はもちろん友達と過ごす楽しい場所であり、日常生活の多分を占める居場所でもあり、多くの経験を得る機会である。しかしながら病気やケガ、家庭内の事情で休まなければならない場合も生じてくる。また、中にはさまざまな理由で通学そのものを望まず、長期に渡り欠席してしまう子供もいるようだ。

昨年、文部科学省より発表された平成27年度の『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』によると、年度間に連続または断続して30日以上欠席した長期欠席者は、全国の国公立の小、中学校で約19万5000人。その内、病気や経済的な理由をのぞいた不登校児童生徒は約12万6,000人だとされている。一概に「不登校」といっても理由は様々で、不安など情緒的混乱、無気力、学校における人間関係、遊びや非行などがあげられる。また、小学生から中学生に上がり、周囲の環境や生活が大きく変化することで生じる緊張やストレスから、不登校になる生徒は小学生の5倍以上とされている。割合で見れば、およそ1クラスに1人が不登校になる可能性があるようだ。この数字からも分かるように、不登校は特別なことではなく、どの生徒にも起こりうることだといえるだろう。

春に枝先に若葉が出たあと、前年の葉がそれに譲るように落葉することから呼ばれるようになった植物「ゆずりは」。その「ゆずりは」のように、ささやかな活動でも次の世代に伝え、育てたいと願いを込めて名付けられた「ゆずりは学園」は、東三河を中心に不登校・ひきこもり・発達障がいなどの子供や若者たちの自立支援に取り組むフリースクールだ。生徒達から親しみを込めて「ママ」と呼ばれている学園長の杓名さんは、自称「永遠の18歳」。陽気に話す笑顔から、なんだか暖かい人柄が伝わってくる。

「中学校で教鞭をとっていたとき、校内で暴力をふるい、問題児とされていた一人の生徒を引き受けたのがフリースクールを開くきっかけです。型にはめることを強いて、はまらない者は排除する傾向にありがちだった学校教育では、本当の彼と向き合うことができないと感じていました。」

幼い頃から面倒見は良かったという杓名さん。分厚い辞書をいつも持ち歩く、英語教師だった父親の影響もあってか、大学で国語と英語の教員資格を取得し、卒業後は一宮市の中学校へ赴任。以後、県内の小、中学校で30年間学校教育に携わり、2001年に自宅を開放して「池の原フリースクール」を開校。最初は二人の生徒を受け入れたそうだ。

「子供達の叫び声に応えることのできない学校教育の在り方に疑問を感じ、教職から離れた私ですが、教師として信じる道を歩んできたのだけは、今も確かだと思っています。」そう話してくれた杓名さん。優しい瞳の奥に、子供達を想う強い信念が見えた気がした。

▼プロフィール(くつな・かずこさん)

1948年生まれ田原市生まれ。田原市立田原東部中学校出身。愛知県立成章高等学校を卒業後、愛知大学 文学部国文科へ進学。大学時代の4年間は勉強に没頭。卒業論文では、全国大学国語国文学会の学会賞を受賞。国語と英語の教員資格を取得。卒業後は、一宮市立丹陽中学校へ赴任。以降、30年間小・中学教員として勤務し、文部科学省の通級指導教室(リソースルーム)を3年間担当して早期退職。2001年5月、美術教諭だった夫の華智さんと「池の原フリースクール」を開校。2008年6月「特定非営利活動法人 ゆずりは学園」として法人化。2013年9月「ゆずりは学園 豊川稲荷校」開校。現在も勢力的に活動中。

